裝劍奇賞

附録 唐土類圖抄
印籠師名譜 并圖

陸

139
7
209

東京圖書館

和書門
兵法類
二九函
三一架
二〇九號
七冊

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻　139-209

ガラス使用

裝劍奇賞卷之六　附錄

浪華　稻葉通龍新右衛門著

裝劍奇賞五卷。已（スデ）ニ卒業（ソツゲフ）シテ。附（フ）ヲヘヨ。佩物（サゲモノ）ノ。ヲヨビ。印籠。等ノ。革（カハ）ノ。ヲヨビ。根附（ネツケ）ノ。法（ヲキテ）ノ。ヲヨビ。ヲノヲノ。ソノ。ヲヨビ。ヲヨビ。ヲヨビ

と・さ〜もよそえそ〜とおもふ（カキ）
ばかりにて・おのづから・名ところそなはるふ
ふ・なるべし・そおこなはれて・事さまたる人くの
えあらひそゝぎこはなどは・告て（ツゲ）洗ひ（アラヒ）かぎり残（タヅ）
なびなんよ・国（モトヨリ）余が（子ガヒ）希ふ・ところをいでず・火
我水よりひらくもの・あるなど・十よなるものいも
ぬきよりのようそ・かくは梨（リサウ）実を残してやをも
なんぞ・おのが顔厚しとにくそ・いさゝかも恥（タガ）
まぢもとのえゆのし給ふ（キコ）即（ヤガテ）南あの空（エキ）となる・
ようきものあるべきこと・亦（マタ）幸（サイハヒ）甚（ハナハダ）
ふしぎぞ

○革品（カウヒン）　鞣（カハ）皮の製し
周禮天官に掌（ツカサ）皮は掌（ツカサ）り秋斂（ヲサム）皮を冬斂（ヲサム）革を春献（タテマツ）
之（ラ）注に有（ヲ）毛（ケ）為（ス）皮と去（ヲ）毛（ケ）為（ス）革とあり・和語
カハとよむは甲（カフ）の音の転ぜるなり・或説なり出せり

亞媽港（アーカハイン）應帝亞（デヤ）　古渡
インデヤは國の名なりて・南天竺（テンヂク）なり・一に印度（インデ）とも
書（キ）て印度は天竺の正名（セイメイ）なるなり・一切経音義（イツサイキヤウオンギ）
えるろ・或書（アルヒヨ）よ・墓湾（ボンミヤウワン）國（コク）の南よりある・一つの島（シマ）もい
ふ・そこて革類を産（サン）する所の國名をとりて稱（ショウ）そ
ふるの多し・蠻國（バンコク）の地方（チハウ）名（メイヒヨウ）稱よもろくは余が博聞
なるべくは・盡（コトゴト）く考（カウ）正（セイ）するを要（エウ）とすれども・只（カダ）業（ワザ）よ
りてわたる目（メキ）巧（タクミ）の要をつまむくは・卻（イサ）て試（コヽロ）み

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209

ガラス使用

絞こまやうよ・色煤黒(スミグロ)し・皃(ゼンピ)全皮(オホキサハ)大方二尺許(バカリ)

長臂印度亞(テナガインデヤ)

絞(レボ)こまのくしく長くゆるやかなるもの・全皮(ゼンピ)大

さよりおゝし○山海経(センガイキヤウ)よ・僬僥國(セウゲウコク)の東よ・長臂(チヤウヒ)人(テナカビト)

國あるとそこう・山あるよう・皃(ゼンピ)全皮(オホキサハ)大方二尺許(バカリ)

鼠印度亞(子ズミインデヤ)

嵐色なる地(ジ)ふく稱(ショウ)ぞ・

中渡印度亞(ナカワタリインデヤ)

莫卧爾(モウル)よふく似(ニ)て紋(マギ)皃(ゼンピ)

ハ裏(ウラ)よ紅脉(チスヂ)あるハ必ぞ・裏(ウラ)絞(レボ)ておつべし・全(ゼン)

絞(レボ)こまやうよ・色煤黒(スミグロ)し・長くゆるやかなるもの・皃(ゼンピ)全皮(オホキサハ)大方二尺許(バカリ)

長臂印度亞(テナガインデヤ)

絞(レボ)こまのくしく・細(コマカ)く・左(サ)さよりおゝし

中渡印度亞(ナカワタリインデヤ)

莫卧爾(モウル)よふく似(ニ)て紋(マギ)皃(ゼンピ)

ハ裏(ウラ)よ紅脉(チスヂ)あるハ必ぞ・裏(ウラ)絞(レボ)ておつべし・全(ゼン)

國立國會圖書館

ふる系あるハ必ぞ・述(ノブ)ふ・まふふハ余が臆見(オクケン)よう出(ウガ)ると・肯(ウケガ)ざる人もあるべし・左(サ)よふぞ・必(カナラ)ず實見(ジッケン)を経(ヘ)て斷(コトワ)るべし・系なるハ疑(ギ)ふべくふぞ・凡(オヨソ)インデヤ舶(ふね)事ハ万一寶全書よ出(イ)でたるハ參考(サンカウ)ぞ(マヽヘミル)余が誠(コヽロ)ふる絞(レボ)こまかく・純黒(ニックロ)にして・絞(レボ)レタるもの上品なり・價貴(アタヒタカ)し・亞媽港(アーカハ)と稱(ショウ)するもの最上(サイジヤウ)ぞ・全皮(ゼンピ)大さ二尺餘あり・按(アン)よインデンの屬(タグヒ)數品(スヒン)あり余がふる系のものを擧(アグ)ル

ルイス印度亞(インデヤ)

ルイス字未詳

ガラス使用

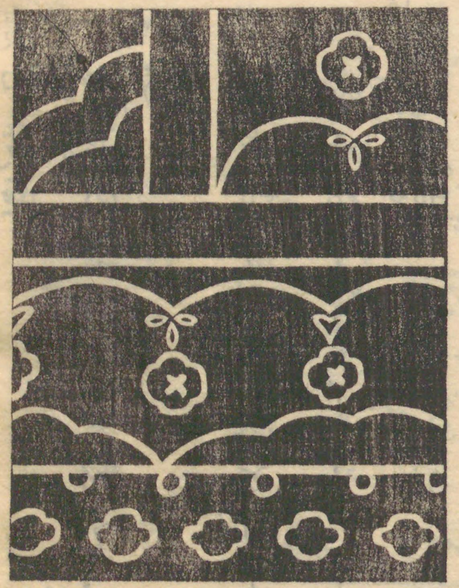
国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209

皮大さ同上。凡此類の皮ハ。大さ三尺許（バカリ）
ありて。馬のごとき形乃（カタチノ）獣（ケモノ）なりといふ

古渡野牛印度亜（コワタリヤギウインデヤ）

絞（レボ）あり〳〵色黒く。絞下（レボシタ）玉くゑし。皮革（カハ）ふく
軽（カル）軟（ヤハラカ）し。野牛ハ別（ベツ）皮（カハ）よりうすく。やはり印度亜の
中にして。最（イトヘ）深山にあるゆゑ。かたく。物を
載（ノセ）るにハ。ふさはしからぬ事（コト）なれども。
中渡野牛印度亜（ナカワタリヤギウインデヤ）

漫絞（ベタレボ）にして。全體（ゼンタイ）茶褐色（チヤカツイロ）なり。性合（セイガフ）よし。新渡
野牛とくらべハ下品（ゲヒン）なり。中渡ハ下品にして。野牛ハ。カアホ



テホウヌイスフランスとも。
商考（シヤウカウ）よろしからず
紋印度亜（モンインデヤ）　紋様（モンヤウ）ニアラズ。今其（ソノ）上品ノモノヲ図ス
尤（モツト）よく図（ヅ）するごとき紋（モン）なるゆゑ。鉄印（カナバン）まで。打（ウチ）出（ダ）
したるものとこゝにいふ。
本邦（ホンホウ）にて偽造（ギザウ）するもの
あれど。渡（ワタリ）ハ紋（モン）ひくく。
地高（タカ）し。偽造ハ。紋高
く地ひくし。真物（シンブツ）ハ
價（アタヒ）甚（ハナ）だよろし

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

新渡印度亜
中渡の莫臥尓ゟ似ゟ
紋野牛
野牛印度亜ゟ紋を打
蠻貢のものまゝす
七寶印度亜

紋印度亜の紋紙・画具まて彩色ゟをく・名
ぢきゟものなり・古渡の物まて稀ゟ・價も亦
貴く・新渡のものなり・一種ハルシヤの皮まて製
しゟ八・大阪伏見町・筒乱屋四郎右衛門といふ人・
金皮方ゟ八許

小印度亜

刺紋印度亜

擬して作る・ゟく人紫笛と號し・狂言地をく
ゟあり・後偽ゟなり・拄堂とい
ふ

獸毛を絲ようて五
色ゟ染・それゟて蔓
草の數地繍ゟるもの
なり・多くハ後ぶるあ
まて手間ゟし

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209

ガラス使用

女莫卧爾丸本まて。品よろ〻。取擇ミ。ば。名く。
革小形ニ絞もほろし
交趾印度亜
絞鹿く。ざんぐろ。て。絞下赤ー。性ハ能ゑれど。
下品のものし。但ほ〻しき所もある。交趾の産
なれバ。其名のミ。称そ。革のさ〻の似さ
れバて。肆ニ。かくハ名けー。凡交易家の言
ニ。数の事多ー
莫卧爾
古渡中渡新渡あり。万寶全書ニくろ〻ー。

是亦方三尺許の大さの皮なり。莫卧爾ハ南天竺ニ
ほ〻せる第一の大國なるよし。通高考ニ
小莫卧爾
莫卧尔革ハ小形ニて。五十張を壹櫃ニく。
貿行ミ。一種ありて女莫卧尔と稱ぞ。是
亦五十張壹櫃なり
呂宋革
万寶全書ニくろ〻ー。但ー中絞ともせ
ハ非なり。大絞ニて甚ぐ輭ニ。裏かろ〻ー
とぬるものし。全皮大さ三尺ニ強ニ。訛尺五ー寸

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

許(バカリ)まで也。呂宋ハ南蠻(ナンバン)に屬(ショク)せる一ツの島(シマ)と

水牛(スイギウ)皮

大(オホ)絞(シボ)にして純黒(ムクロ)なり。絞(シボ)下(レタ)玉(ヨ)て赤(セキ)し。全(ゼン)皮凡(ヨソ)壹間(ケン)

半(ナカ)ヨ。横四尺許(バカリ)のもの也。水牛一(イツ)ヨ沈牛(ヂンギウ)又抗牛(カウヂウ)

ともいひて。其色青(アヲ)く。サイロン國ヨ産(サン)し。蠻名(バンメウ)

カラバウといふ。或(アル)書(レウ)ヨ見(ミ)えたり

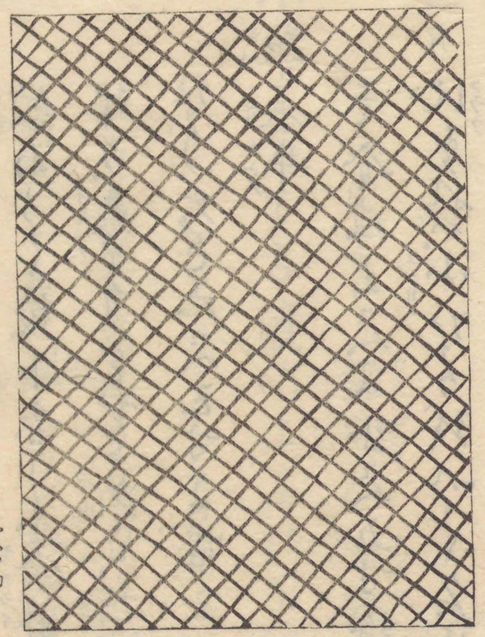
中渡水牛皮(ナカワタリスイギウヒ)

其絞(シボ)あらく。絞の上下(カミシモ)ともにざらく茶褐(チヤカツ)色なり。

新渡(シンド)のものありて。其さまはしとともに革

こそさもつ(テツキ)なく。うす革(カハ)にて辨(ベン)ずべし。是ヨ

篩斗目水牛(スイナウメスイギウ)



サイロン國の産(サン)なり

圖(ヅ)ぶつ(ヘラ)毘(ビ)ありて筋(スヂ)附(ツケ)るもの

とこそ。内(ウチ)ミ、

荷蘭(アンペラ)のやうなり。俗

ヨ麁通(アラドホシ)とヨ篩(フルヒ)の

ごとくなる孔(アナ)ありて。高(シヤウ)

家(カ)ありを名付(なづけ)。其革(ヤハラカ)

軟(ヨ)古渡(コワタリ)の物淺茶褐(ウスチヤイロ)色

なり。大さ六尺五寸ヨ許。但(タヾ)黒色(クロ)なる

幅(ハバ)三尺五寸ヨ許。

国立国会図書館　装劍奇賞 7巻 139-209

ガラス使用

ものハ和製(ワセイ)ておよそ
黒水牛(クロスイギウ)
紋(レボ)あらく紋下赤し。全躰(ゼンタイ)純黒(ニックロ)にして。こゝき皮
なり。表(オモテ)ようすを折(ヲル)よ。折目(ヲリメ)ところ氣味(キミ)なるもの
なり。おさ六ツ五ツ許(バカリ)
小華水牛(コガハスイギウ)
皮(カワ)ようよく似(ニ)たれども。他の水牛皮(スイギウカワ)
比(ヒ)べれバ。ゆぶり(ユブリ)なる紋(モン)にて名(ナ)づく。革(カワ)こゝき。甚下(ハナハダゲ)
品(クダ)なるものし
銀水牛(ギンスイギウ)

地浅茶褐色(ウスチヤイロ)よ。銀(ギン)の針金(ハリガネ)ようの
ものて。紅夷人(オランダジン)の製(セイ)なり
ウスコウベヤ
万寶全書(バンポウゼンシヨ)よ。鑑賞(カンシヤウ)の訣(ケツ)ありて。皮(カワ)の堤(ツヽミ)なり。思調(オモシラ)
よふて古渡の上品(ジヤウヒン)ものハ。其紋畾々(ソノレボライ〳〵)とし
紋下甚赤し。ウスコウベヤ。スムスコベヤともよ。
孰(イヅレ)も是なる紋ようぞ。ウとムとの通(カヨ)ふる事ハ。梅紋(ウメ)
ムメ。馬(ウマ)をムマ。諾(ウベ)をムベともるごとく。相通(サウツウ)を。
固(モトヨリ)正名(セイメイ)ハ愚(アヽ)が関(カヽ)ふる所(トコロ)ならずといへども。もしひごきの
ようなる紋もて。こゝよウスコウベやともるぞう。も産地(サンチ)等

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

いやさ詳(ツビラカ)なるべし。識者(シルヒト)の考正(カウセイ)を俟(マツ)のみ。全(マタ)
皮大さ二尺許より以(モツ)て尺餘
中渡(ナカワタリ)ウスコウベヤ
是(コレ)革(カハ)の性(セイ)もよく。亦謂(イハユル)漆氣(ウルシケ)なるものうすく。元(ハゲ)
る所。乾(カハ)けるに味(キミ)なるものし
小(コ)ウスコウヘヤ
其革小(サ)し。故(ユヘ)に別(ベツ)なるを名(ナヅ)く
新(シン)ウスコウヘヤ
是(コレ)は黄白爾齊(キハクニセイ)亜(ツ)ぎ極品乃所を。和(ワ)して修製(シユセイ)し。
新ウスコウベヤと名(ナヅケ)て。甚(イト)よく性合(セイカフ)よきものなり。今

稀(マレ)にて得(エ)がたし。大さよりは
小豆革(アヅキがハ)
紅夷人(コウイジン)乃貢(ミツキ)する革にて。其色の似る珠(タマ)のごく
稱(トナ)へり。万寶全書(バンポウゼンシヨ)よりくわしくもろせり。但(タヾシ)
大紋(オホモン)なるものという事。いまだ精(クハ)しからず。小紋
なるものもあり。又革厚(アツ)しとあるもいうに。あたらず。
大さ二間より幅一間許(バかり)のまで。全皮(マタかハ)大さある
べきにあらず。今扱(アツカ)ふ所(トコロ)已(スデ)よりも切(キリ)るものとこゝろえれば。
いと大きなる獣(ケモノ)の皮あらん。まゝて蛮人(バンジン)の褥(シトネ)
などよ。せしものとそ。 但(タヾシ)一種(イツシユ)右(コハ)より裁切(タチキリ)て渡(ワタ)
ふをえらん。絶合(ツギアハ)せしもの

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

紋小豆革（モンアヅキガハ）

紋ハ　本邦ノ製ト雖モ近時（キンジ）ノ作ニ
ハ精（クハ）シカラズ・古（フル）キ物ニ近（チカ）キモノハ
ソノ和（ワ）ラカニシテ・紋起（モンオコ）リ地（ヂ）沈（シヅ）ミテ・ソノ年（トシ）
ヲ経（ヘ）ルニ従（シタガ）ヒテ・ソノ紋（モン）ノ印（シルシ）ヲ失（ウシナ）フ
ニ至（イタ）ルト雖モ・ソノ傳（ツタ）ヘ珍（メヅラ）シキ物（モノ）ナリ・
辨（ベン）ジテ・目利（メキキ）スベシ

青皮（セイヒ）

鼻青皮（クサゼイヒ）

〳〵〳〵萬寶全書ヨリ出（イヅ）レドモ・ソノ
圓機活法（エンキクワツポフ）ニ出（イヅ）ルヿヲ載（ノセ）ズ・但（タヾシ）
倘（モシ）ハ犀（サイ）ノ胴皮（ドウカハ）ナラン・青皮堅厚（セイヒケンカウ）ニシテ・
可以為鎧（テヨロヒニスベシ）ト有（アル）ヨリ・蕃産（バンサン）大亀（オホガメ）ノ胴皮（ドウカハ）ヲ
以（モツ）テ・ソノ代（カハリ）ニ充（アテ）ル事（コト）ト考（カンガ）ヘ・商家（シヤウカ）ニテ
又（マタ）一段（イチダン）ノ後（ノチ）ナリ・猶（ナホ）考（カンガ）ヘ〳〵

朝鮮乃大亀の胴皮（テウセンノオホガメノドカハ）

〳〵〳〵〳〵

よくくかぶればんあやまるぐし・サントメハ西天竺ノ地名ナリ・全皮(ゼンピ)大サ二尺五寸ヨリ三尺五寸許(バカリ)

中渡聖多黙(ナカワタリサントメ)

絞下ゲヌキ色ナリ・新渡モ同様ナリ

大絞聖多黙(オホシボリサントメ)

是ハ絞乃鹿大(ソダイ)ナル物ニテ稱(ショウ)ヲ・性合等異(コト)ナルコトアルノミ・絞乃様(ヤウス)ヨリテノ事ナリ

小絞聖多黙(コシボリサントメ)

是ハ絞ルヲ稱(ショウ)ナル事・多クハ同シ・但下品(ゲヒン)ノモノニテ・全皮大サ二尺ヨリ二尺五寸許(バカリ)ナリ

黄聖多黙(キサントメ)

黄ナルミアル茶褐色(チヤカツイロ)ニテ・性合(シヤウアヒ)ヨロシクテ綺(ヨ)キ革(カハ)ナリ

白聖多黙(シロサントメ)

其色純白(ジユンパクニシロ)ニシテ・雪ヨリモ勝(マサ)リ・表ハ乾気(カハキケ)有テヌグヒヨク・性合モヨクテヨキ革ナリ

眞黒聖多黙(マグロサントメ)

其色乃純黒(ジユンコク)ナル物ニテ稱(ショウ)ヲ・蜜船(ミツバク)貢ルモノニシテ・和製(ワセイ)ハヨロシカラヌ劣(オト)リ

湯入聖多黙(ユイリサントメ)

芝 聖館蔵

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209

ガラス使用

を革(ウスデ)よなれども。性合ねぢ。表の方ボク
ボクと擗(ヘゲ)る気味まで。絞の上サクラして。彼下白。ク
毛(ケ)の穴(アナ)のごときものあり。是ハ船中まで塩(シホ)入る物
とぞ。

紋聖多默(モンサントメ)

サントメよ紋を打(ウタ)るものまで。和製なり

百爾齊亞(ハルレヤ)

此革も。萬寶全書よりを所。茶色の
ある故りて。五色(ゴレキ)革(ガハ)ともいう。古渡ハかるけ
色まして。ひやなく。性合ねぢ。表の方ボク
ボクと擗(ヘゲ)る気味まで。絞の上サクラして。彼下白。ク
毛(ケ)の穴(アナ)のごときものあり。是ハ船中まで塩(シホ)入る物
とぞ。

紋聖多默(モンサントメ)

サントメよ紋を打(ウタ)るものまで。和製なり

百爾齊亞(ハルレヤ)

此革も。萬寶全書よりを所。茶色の
ある故りて。五色(ゴレキ)革(ガハ)ともいう。古渡ハかるけ
色まして。ひやなく。性合ねぢ。表の方ボク

おちうそてよう。中渡のものハ。つねあらく堰(ウスビキ)
なるごとく。除汁(ソメル)の付(ツク)よう。うず。黒(クロ)ハ
ルシヤと稱(トナ)るハ。駱貢(ラクコウ)よりて和製よあらず。古
拾張(ヂイ)。又ハ拾張収(ヂイイリ)一捆(ヒトツタリ)のも。西天竺(サン)よりそ

白百爾齊亞(ハルレヤ)

是ハ全皮よてもうそ。
壷(ツボ)焼(オホ)ひあらう(ハウ)る故。
下品のものなり

苔革(コケガハ)　面背ノ図次ニ出ス

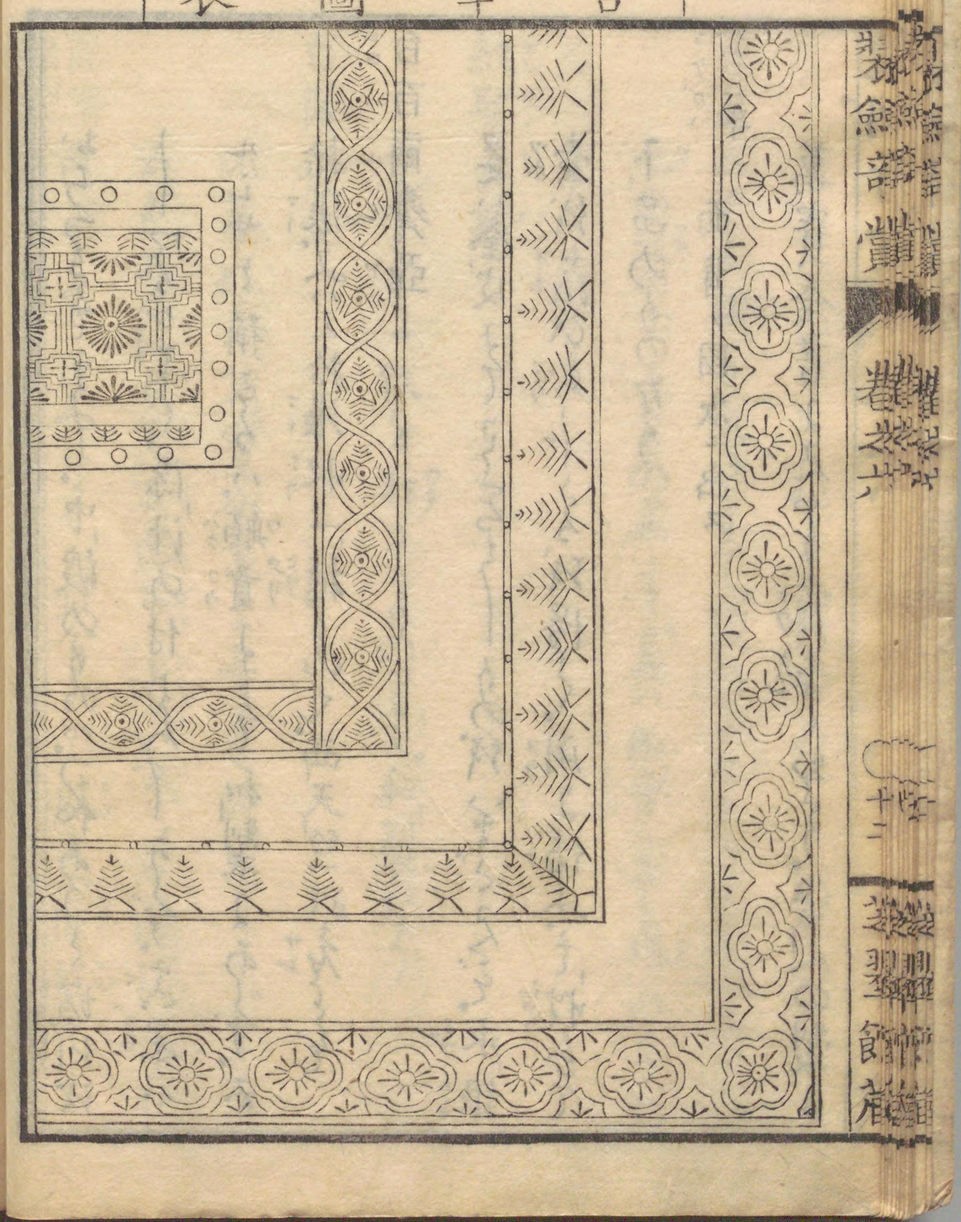
萬寶全書よんやう等(トウ)委(クハ)しく出そう。蠻人の製よ

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209

ガラス使用

同圖裏

苔革圖表



国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209

ガラス使用

して・肆(シ)よ・絃革(エガハ)・之(ノ)・數革(シキガハ)之(ノ)ハ・銀革(ギンガハ)・伊勢(イセ)いんでん

ともいふ

凡(オヨソ)・おの〳〵・非(ヒ)なる・なり・堀(ホリ)の院五百首よ・池(イケ)とよみて・蘇(ソ)・名(ナ)・房

「いせなるやびひぢをぞとも」おもひそめ

けん・池・又・まことよ・戦(カセ)・そ・「伊勢人はひぢをぞとも」申

竪川(タテカハ)ゆきやいづこの原・などゝいふ・伊勢(イセ)・物語(モノガタリ)・事(コト)・ふるき言葉

なり・堀の院五百首よ・池とよみて・蘇・名房

「いせなるやびひぢをぞとも」おもひそめ

けん・池・又・まことよ・戦・そ・「伊勢人はひぢをぞとも」申

竪川ゆきやいづこの原・などゝいふ・伊勢・物語・事ハ

紅革（ベニカハ）

萬寶全書ニ。ハルシヤ此中ニアリトモ云ヘレ非ナリ。古渡ハ浅紅色（ウスモヽイロ）ニシテ。性合荼毘（ガフ）ナリ。新渡ハ色赤ク光（アカ）（ヒカリ）アリテ。性ハサントメナリ。古渡ニ品ナリ。革（カハ）モ亦タ大ナリ。おとり。

味なり　此革を黒サントメヨリ汁ニシテ。十遍（ヘン）許（ホド）染（ソメ）モノ。後ニ石灰（イシバヒ）ニテ。能ク洗（アラ）ヒ。入ヨリ染ムベシ。黒サントメトナルナリ。染（ソメ）テ後ニ。石灰ニテ。能ク洗ヒ。紺屋（コンヤ）ノ用ユル。梅汁（ムメジル）ヲ。薄ク引キ。刷毛（ハケ）ニテ。一面ヨリ染ルトイヘドモ。猶ホ上ヲヘ。染ムベシ。染テ後ニ。能ク水ニテ。数遍（スヘン）洗ヒ。陰干（カゲボシ）ニシテ。皮（カハ）ヲ揉（モム）ヘシ。揉ム法ハ。ろくろくやすりノ如キ。ものニテ。ごしごしト。揉ムナリ。

榜葛剌革（ベンガラカハ）

ハルシヤのごとくすべて別種なり。赤黄黒の三色あり。革もこまかにふぶりと稱する事。色の良（ヨイ）事ハルシヤの如なれども。夷（エ）の地名なり。東印度の種（シュ）なるゆへ。武備（ブビ）志よりも劣（オト）れり。

透革（スカシガハ）　彩色革（サイシキカハ）ナリ

和産の牛皮（ギウヒ）あまたなぐ（なめ）し。サビ皮（ガハ）といへる。刀脇差（カタナワキザシ）の鞘（サヤ）工の用ゆるのあり。そのサビ皮のごとく。色さまざまの染（ソメ）を。摺（ズリ）ハケ。おのおの人物（ウチモノ）。花形（カラハナ）の形なるを。うつしとりて。彩色（サイシキ）宛然（エンゼン）（サナガラ）とし。

坂本　新介刻

国立国会図書館　装劍奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

南京繪革圖

て滇轉鳫倒忽変徹そ。紅毛製衣とそくともそ
ぞ人おなど南京人とそあをハ唐おなるべし
印花革
蠻産よあそ。唐山の製とそて。方そ間半許の
大革なり。地色白く。やゝそうなるよ。緑青生燕
脂のごとき二色そて。人おなど残けり
南京繪革
そも唐山の製そて。近年渡しりのよ。絵摸
彩色等ごく事なるう。革性ハ暹羅獐皮乃
類を滑せしりのとそしそる圖を

坂本 新介刻

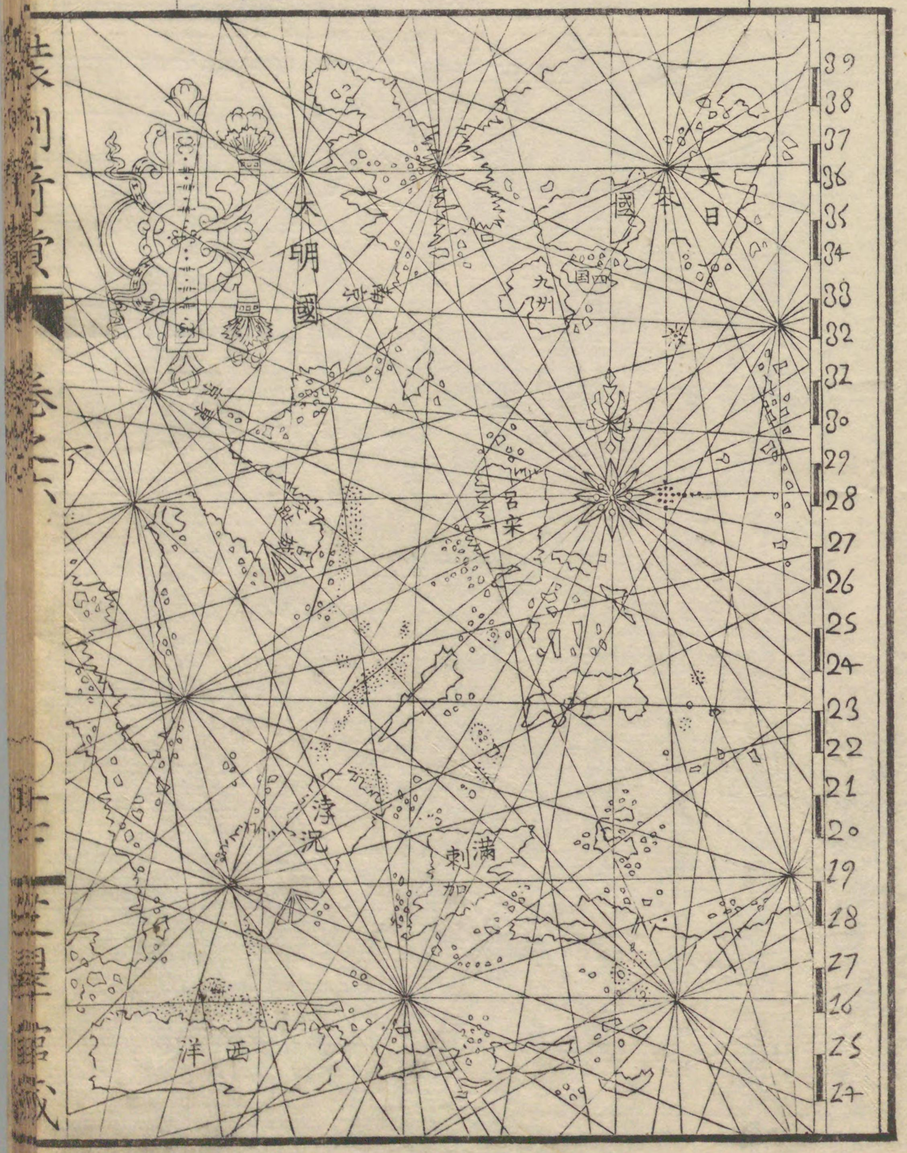
国立国会図書館　装劍奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

萬國圖革

此革全躰牛皮と見えて甚ざらざらして・是は紅夷人の製ゆえ・面を白くぬり・萬國の圖をえがき・磁石よりは圖ばかりなくて・島〻は殊更渡海をするゆえ・其躰を・余が発するゆえ・大さ方壹尺七寸許ゆえ・洋中の島〻・其名詳なるざれを・何人もよむ事ならねども・其形ばかりよく見えて・其譯せり・此革佩物等乃用をも全圖ばかりにてもよく出せり・紅夷人乃坤輿ゆえ精き事ハ・人皆もつ所なり

坂本新介刻

萬國圖革省圖



国立国会図書館　装劍奇賞 7巻 139-209

ガラス使用

象皮（サウヒ）

色黒く厚さ弐寸許（アツバカリ）・絞甚だ大（オホ）にしてあらし・

薬用（ヤクヨウ）に供（ソナ）ふるときは一向用ひざるなり・裁縫（タチヌヒ）は一向用ひざるなり

蛇手（ヘビデ）

摸様（モヤウ）圏のごとく・地は黒漆（コクシツ）に銀鑢末（ギンノヤスリコ）を施（ホドコ）して・ぬめりあるごとく・光りありてざらざらとする気味あり・摸様は石色をもちて・それぞれなり

山本清右衛門刻

りのまゝ・蛮人の製なり・奇巧（キレイ）を尽（ツク）すの一種（イッシュ）なり・勿論（モチロン）革の性（セイ）にて・彩色（サイシキ）（イロドリ）する事・至（イタ）て精（サエ）たるものにあらず・蛇（ヘビ）の子（コ）が画（エガ）きたるもあり・まぐさ様（ヤウ）の模様（モヤウ）あり・金（キン）唐皮（カラカハ）と称（シヤウ）す・萬寶全書（マンポウゼンショ）に金革（キンカク）（カナカハ）金唐皮（キンカラカハ）と二品（フタシナ）に分（ワケ）て出（イダ）せるは・当時（ソノコロ）多く流布（ルフ）せざるゆえ・かくのごとく（ウチヲキ）委（クハ）しく出（イダ）せるなるべし

国立国会図書館　装劍奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

升平日久(ショウヘイヒヒサシ)きようよう百貨競(クワキソ)ひあつまり海外(カイグワイ)より貢(コウ)する所年々新(アラタ)なるものゆゑ吾俤(ワナミ)まで
それを擯(ヒサギ)て主顧(シユコ)のみ尊(トクイ)ぶゆゑ故(ユエ)に此書は載(ノセ)る所新舊(シンキウ)尚(ナホ)そむかざるを辱(カタジケナウ)す
出(イデ)る事皆(ミナ)なるべし(トリ)あつまるまゝよろしき事希(ネガ)はくは
いつもかくの
人形(ニンギヤウ)手
左(サ)の図(ヅ)より出せるごとく人物ある絵にて此名絵
稱(ショウ)ぞ余(アマ)ねく不(ズ)四品あり地色濃(コイ)ムラサキ
模揉(ボカシ)の所穫(シユ)ぐ著(サイ)色(シキ)を大さ弐尺五寸

山本清右衛門刻

弐尺弐寸(ニシヤクニスン)すれりの手華こゝにいし性(セイ)は印度(インド)亜(ア)なり
又猿(サル)絵画(カキ)を添(ソヘ)く地色濃鼠(コイエズミ)のごく模揉(ボカシ)は銀
なり折(オリ)ふし彩色(サイシキ)シタ(ヤウ)の揉(ボカシ)まて銀光(ギンノヒカリ)ドミく
錫箔(スヾハク)(カナガヒ)ぐ〳〵大さ弐尺八寸よ弐尺弐寸のもの
華こゝにして次(ツギ)なり
揉(ボカシ)おいて希代(キタイ)乃(ノ)ぬくめ(メツラシキ)
此所箔濃(ビヤクダン)大さ弐尺弐寸よ弐尺を革軟(ヤハラ)なる
もの地揉(ボカシ)ぬ一面よ金色(キンシキ)にて大さ弐の
ごく革もやもらなり各(オノ〳〵)人物絵(エガ)を入(イレ)まつり
凡(オヨソ)金華の金ハ金箔よあらび銀箔よ色をたけ

国立国会図書館　装劍奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

人形革圖

山本清右衛門刻

同銀革圖

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻　139-209

ガラス使用

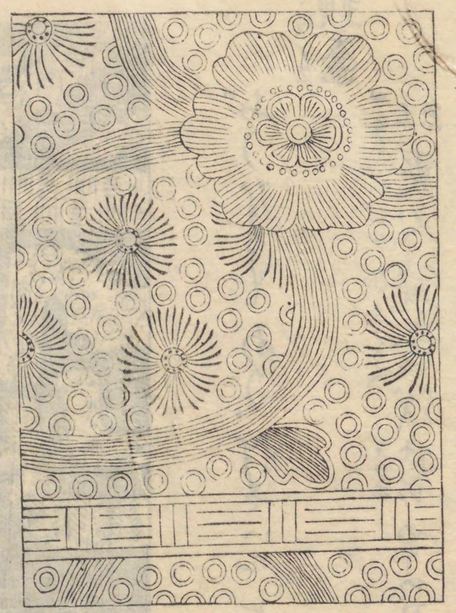
淀屋革（ヨドヤカハ）

くろのまで。押縁（おしぶち）はそべて鉄印（カナバン）なり

革の性（セイ）は苔革（コケガハ）と同じく。極印（コクイン）して打出し。黒漆（クロウルシ）をぬりて圀（ブ）のめくぼくぼくるりのなり。船来（ハクライ）のもまで。甚だ珍（チン）

古（フル）へ往年（ムカシ）本府より淀屋古菴（アン）といひし人の珍（チン）なる物（ザウ）を名（ナヅ）く。今多くぞ。價貴し

極印（コクイン）手



前（マヘ）よいつぐく。金革（キンカハ）は銀箔（ギンパク）にて製（セイ）したるりのなまぐ。此革のごく本（モト）金の上を。玄色（クロナヤ）にぬぐく。一面（メン）に色（イロ）付て。圀（ブ）乃ごとき模様（モヤウ）に。淀屋革（ヨドヤカハ）にぬぐく。黒漆（クロウルシ）にて。ぬりたるりのを

羅紗手（ラシャデ）　又（マタ）火口手（ホクチデ）共云

地（ジ）は泊濃（ビヤクダン）く鉄印（カナバン）打出（ウチダシ）。模様（モヤウ）乃所（トコロ）。羅紗（ラシャ）ぬぐく。全體（ゼンタイ）銀地（ギンヂ）なりて。かの羅紗（ラシャ）ぬぐくごとくの模様（モヨウ）おと

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209

ガラス使用

鏡奩（カガミノス）

ぶらなるもあり。性そハルシヤなり

紅夷人鏡奩（ヲランダガラスカガミノイヘ）

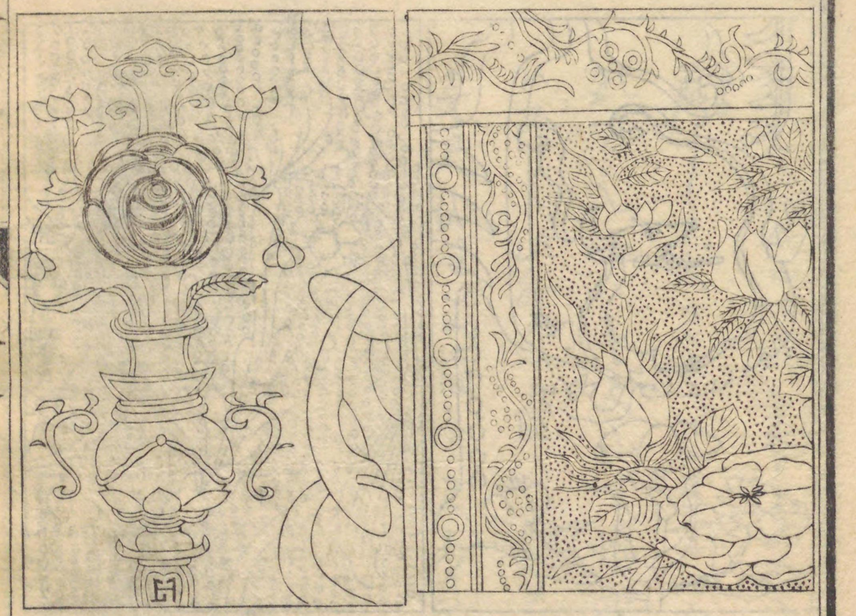
其摸様も不一（イツチラズ）。青きりの。白きりの。みな色ゑ（ワケ）て彩色（イロドリ）るもの等（トウ）あり。大さ弐尺弐寸ほ。又今（ワヅカ）ばかりなるもあり。

銀光（ギンクワウ）あるくし。

摸様さまざまにして銀光潔（イサギヨ）し。地ハ濃臙脂（コキベニ）乃うへをぐ〳〵。

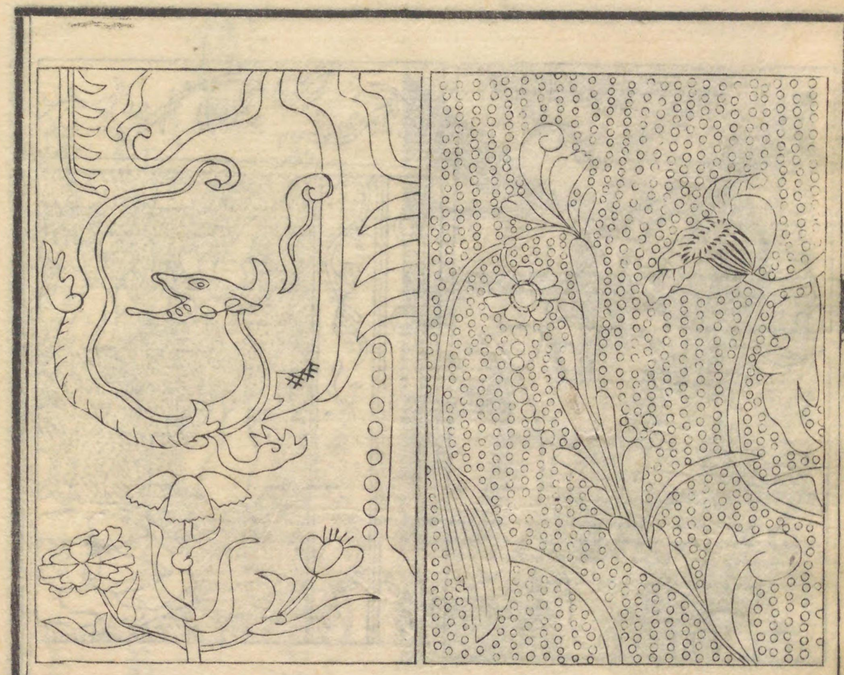
花のさまざまの羅（ウルハ）しを紅（クレナヒ）にて。緑（ミドリ）之甚（ハナ）だ美（ビ）なる事。その中（ウチ）にて最上（サイジヤウ）のもの

玉（タマ）て奇麗（キレイ）なり



国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209

ガラス使用



地銀ヲ以て、七子のめきあり、花ハ紅ヲ甚ざる事ヲ

地色一ならず、朱漆、青漆、濃縹色、又ハ茶褐色等の漆ぬり、或ハ石黄白漆なるもあり、探ハ泊濃ヲ、

藤江四郎兵衛

革ヲハルシヤ或表ようするものとそくく

爲(ウス)ー、大さきて入五す四ら、幅ニすなるハ、大

ゟ方ら、小ハきて入ぬす、幅四すセら、但摺返の邉(タリカヘシ)

ハ除く、ゟおゟよ斎(トビラ)の扇ヲ用ゐる革、頗(ヨホド)大なり、

きて入ぬすよ、幅きて入あり、扇の表裡(ウラオモテ)ともよ、

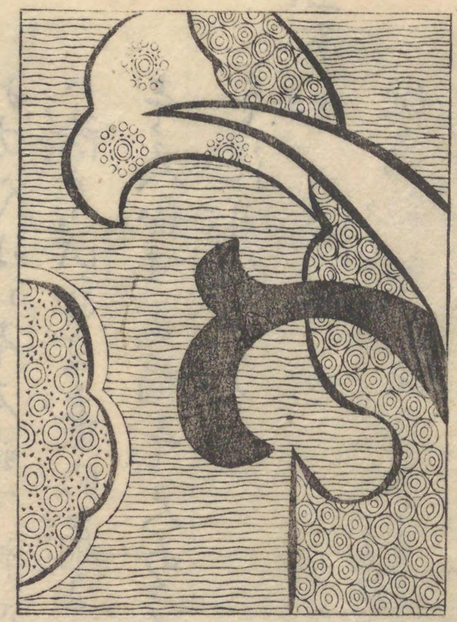
を用(モチ)ひゟ

王子(ワウジ)手

地色雛卵殻(タマゴノカハ)の白ヲ色合(イロアヒ)て、きて銀彩(ギンサイ)清(キヨ)く、

花弁(クワベン)禽鳥(キンテウ)、或ハ栗鼠(アルヒハ リス)蝙蝠(カハホリ)ぬど我ゟ事よ彩色(サイシキ)ゟりのなり、是金革中第一品

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用



花瓶手（クワヒンデ）

まてさゝ稀なり。價も又なみ〳〵

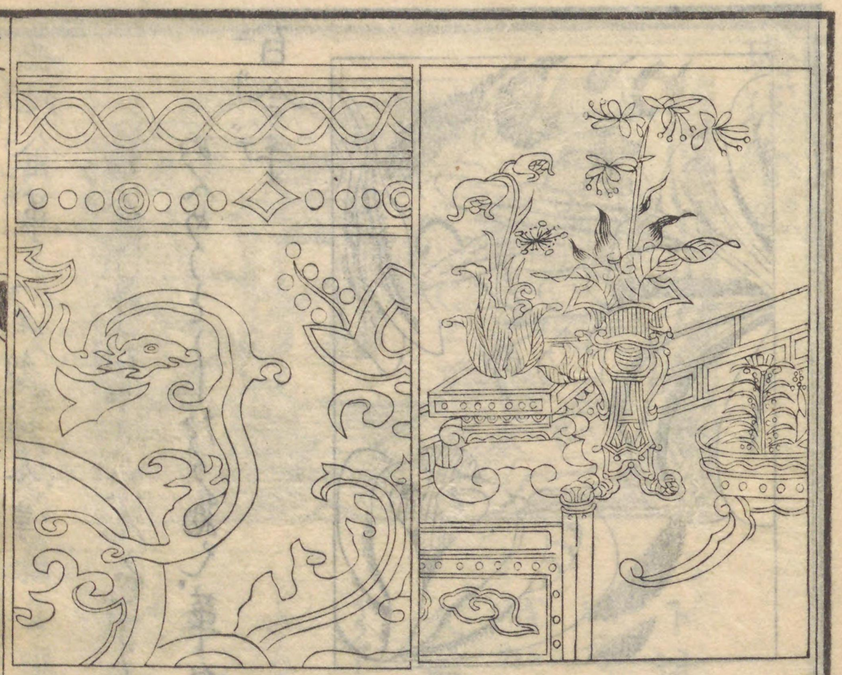
全（ゼン）皮の一品（ヒンナカ）位なり。大なる花瓶なり。花枝挿（サシ）たる図ある故りて名とせり。

今はそこ〳〵に寫（ウツ）せふなり。革軟（ヤハラカ）らかにして下品のあるあらず

銀革（ギンカハ）

前なる苔革（コケカハ）の一名なれ銀革といふ。今とは別也。

藤江四郎兵衛



摸様図のごとく二（フタツ）あり。一面銀ぬりすびやかなんよして、彩色なく、お出（ダ）しるあるて、革甚だこまやかにして、箱なども張（ハリ）て液を拭剥（フキハナ）して裁縫（タチヌヒ）せしものなり。此方（コノカタ）にて交易（カウエキ）すれば、而の大さ、弐尺ばかり（バカリ）許

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

無地金革（ムヂキンカハ）「名梨」地金革

總金（ソウキン）うすびやくだん色まで。地紋捺染等なく。

めんめんとしたるあし。革やわらかなり

百合手（ユリデ）

地色銀の上玳。樺皮（カバ）

ぬぐひやうく。圏の

ごとき捺染を起（タヾ）し

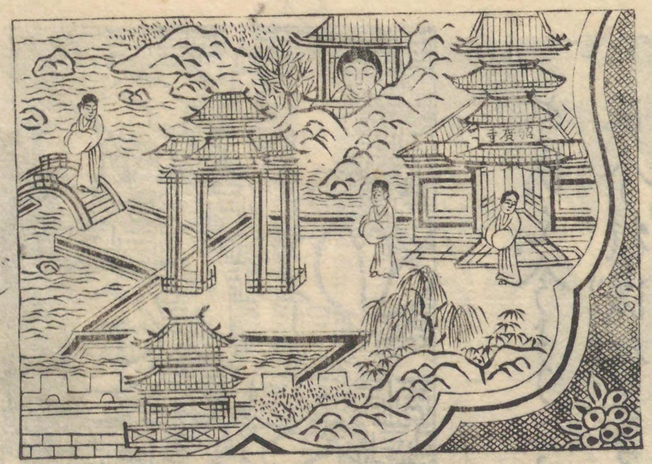
るし。花の蕊（レベ）。百合花（ユリノハナ）

ぬぐひなる玳りて。

名あり。革少し硬（コハ）し

藤江四郎兵衛刻

琉球（リウキウ）繪革（エガハ）



下地玳朱（シュ）そめ。手上玳

仕方よく。ウルミ色なる漆（ウルシ）

玳かけて。山水樓閣を景（ケイ）の

人物など玳。箔濃（ビヤクノウダン）と黒漆（クロウルシ）

にて画（カ）きものして。お出

ろおもあらず。そは硬（コハ）が

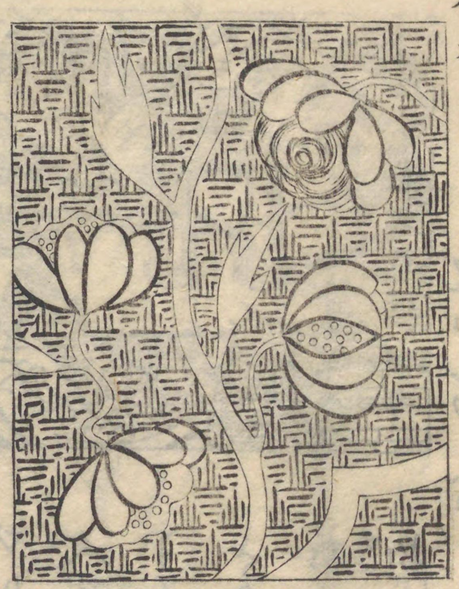
あよ。うねやうなどもれぞ。

折目（ヲレメ）の所より。朱の色こぼ

れ。箱（ハコ）へ張て後も玳剥（ハガ）るし

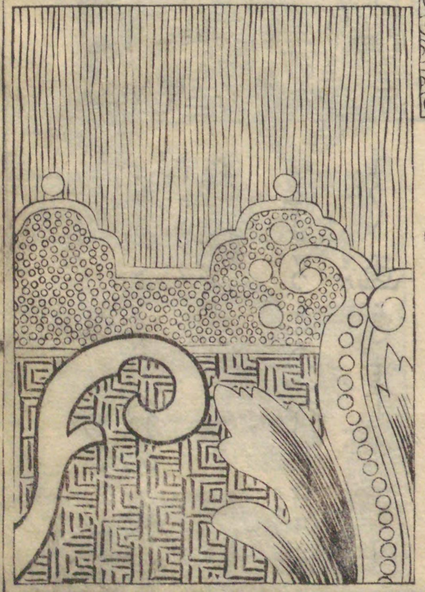
国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209

ガラス使用



柘榴手（ザクロデ）

青地（セイヂ）

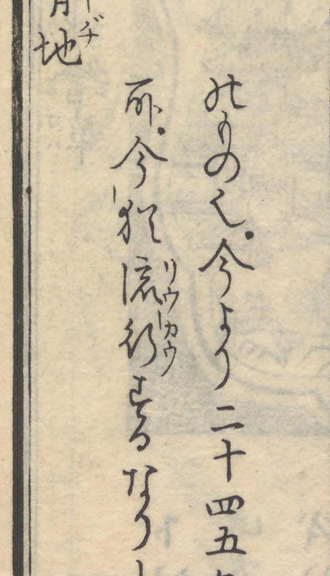


大摸擬金革（オホモヤウキンカハ）

撰採圖のごとく。革地所々（トコロ〴〵）ぬで彩色あり。大さ上よ同じく。革性少こはし

地殺（モエギ）ハチヤン藥ぬりうるをて。撰採圖のごとく。藍（アヰ）赤白（アカシロ）をて彩色（サイシキ）よう。大さ同ク上ニ革の性よろし

村上吉右衛門刻

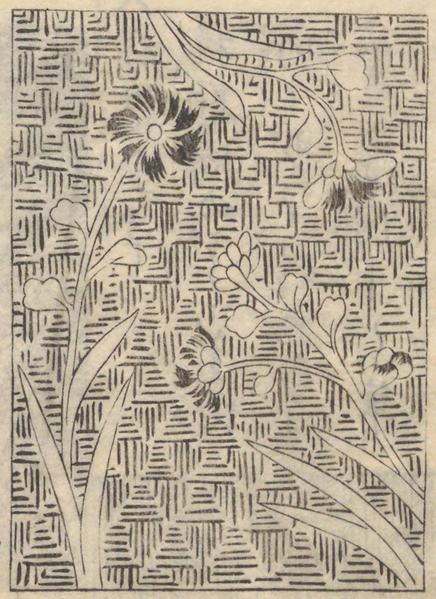


新渡金革（しんときんかわ）ハ中よく。山革（やまかわ）ハそぐめよす。是よう三品渡（みしなわた）まう。各左よ圖を。一よ牡丹手（ボタンデ）ともよ。性ハルシやをて。大さ弁尺五寸よ。弁尺五寸よ。四百張（シヒヤクハリ）ハ多（オホ）許貢（ばかり）をと

国立国会図書館　装劍奇賞 7巻　139-209

ガラス使用

小摸様(ユモヤウ)金革(キンカハ)、又櫻手(サクラデ)ト云



花の莖ほそく、革性硬(コハ)く、彩色薄(ウスク)そぐで劣(オト)る。

大さ、文(モン)ハ彩色、上と同(ドウ)様(ヤウ)に採(ト)なり　已上四品　新渡金革

古渡紋(コワタリモンスヂ)水牛(スヰギウ)　前(マヘ)ノ水牛ヨリ次ヘ列(ツラ)ねる人詳(クワ)しく意(イ)を擧(アゲ)くるぞ

紋の内、絞のまゝにて、地ハ一皮(カハ)うすく剥(ケ)ずるなり。又

図のごとき花の趣(オモム)き、

絲櫻(イトザクラ)のやうなり。初て

渡るもの、花の莖(クキ)ふ

とく画(エガ)き、革軟(ヤハラカ)なる性

ホよく、渡(ワタ)りのものハ、

江戸　金鱗堂梓

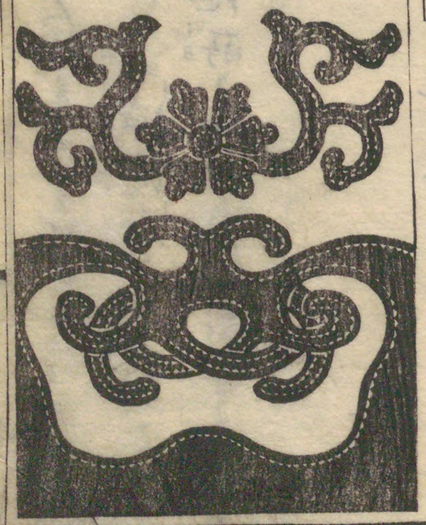
淀縫(ヨドヌヒ)

是ハ全皮あるよりぞ。

サントメ、ハルシヤ、紅(コウ)革、金

革、又ハ白ハルシヤなどの

裁(タチ)ものに此縫(ヌヒ)あつよく



江戸　金鱗堂梓

よりはづしろぐごとし。

革ガ硬(コハ)ク

国立国会図書館　　装劍奇賞 7巻　139-209

ガラス使用

中着筒乱れ料(レウ)など、ものゝ形(なり)死(シ)の数(かず)繍(ヌヒ)補(オギナ)ひ、ものゝし、山城淀(ヨド)府(フ)にて製(セイ)を甚(ダヽ)巧(タクミ)にして古色(コレウ)なり、他(タ)所(ショ)にてかゝる物(もの)を製(セイ)するを定(ヨド)緒(ヌヒ)といふ(サビ)

渡白滑革類(ワタリレロナメレカハノルサ)

舶来(ハクライ)の白革三品あり、所謂(イハユル)獐皮(コビト)ハ小(コ)揉(モミ)のもの、山馬(ヤマムマ)と稱(とな)ふるものハ各大ぶり、並(ナラビ)に大宛国(タイワンコク)乃産(サン)なり、暹羅(レヤム)の産ハ、山馬同揉(もみ)にて大さ狸(たぬき)を小ふりにして、佩物(サゲモノ)ハ用ひざれども、唐革(タウガハ)の数(かず)なる故、世(よ)に繁(シゲ)く下十品ハ和革(ワガハ)なり

村上吉右衛門刻

鶉革(ウヅラカハ)

地紋鶉羽(ウヅラハ)のごくふくめるもの、縄(なハ)ぐれのごくふくめるもの、あり、その地紋の上(うへ)に緑(ロクシヤウ)青(セイ)にて菊(キク)の花(はな)をおくりしもの、大さ方(ハウ)三尺

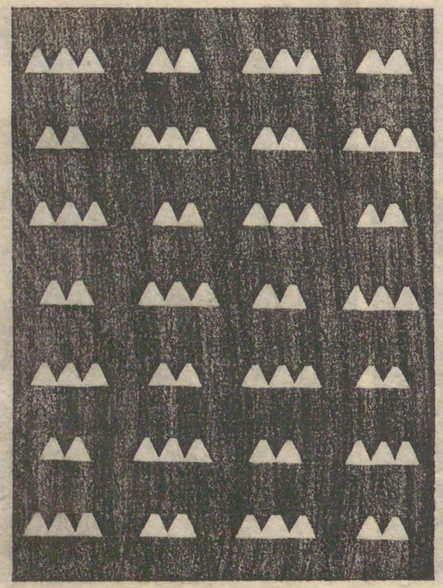
天平革(テンペイガハ)　附正平革

肥後(ヒゴノ)国八代古閑(コガハシロ)揉(モミ)の、ほうそ製(セイ)、元鎧(モトヨロヒ)の威(ヲドシ)に用(もち)ひ、料(レウ)に供(ソナ)ふ、天平十二年八月と題(ダイ)せるあり、当時(ソノカミ)交易(カウエキ)せざるを、後賣買(バイバイ)ゆるされ御免革(ゴメンカハ)と、いふ、又正平(南朝年号)六年六月一日と題(ダイ)せるあり、

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

正平革全圖

村上吉右衛門刻

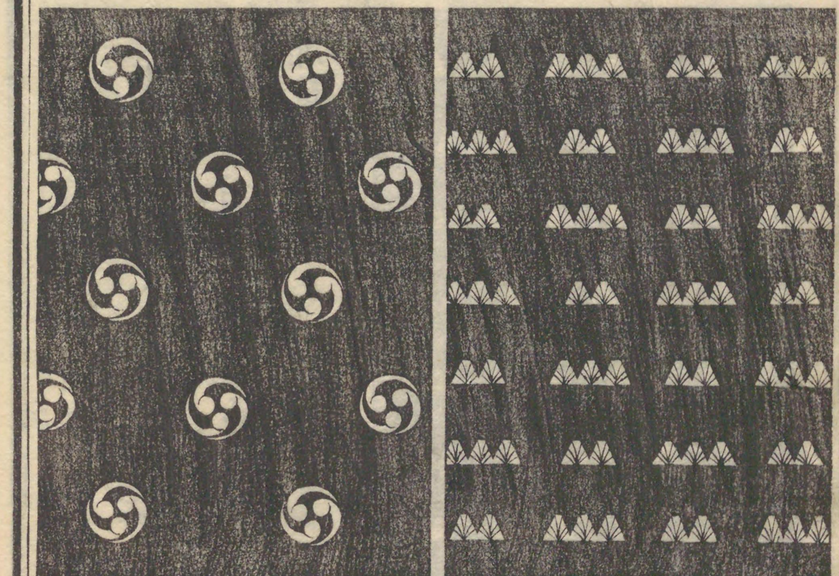


菅蒲革（カバ）

是ハ正平革と名（ナヅ）く、ぜんぶ事くさ〳〵近代（セダイ）世事談（ヂダン）とも書よきそう、尤も正平の後なり、右図ぜんぶごとき一具（グ）ととゝ、倉皮なり六具ハ収（ヲサ）むる

城州男山（ダトコヤマ）の麓（フモト）ゝく、往昔（ワウセキ）染ふ所ゝく是も鎧（ヨロヒ）の威（ヲドシ）ゝ用ふ、菅蒲（ニヤウブ）ハ勝武（シヨウブ）の義ゝ、音（オン）ゝ借（カリ）て、ゝれゝ役（ヒク）せふもぜんぶ亦其事ゝ後の

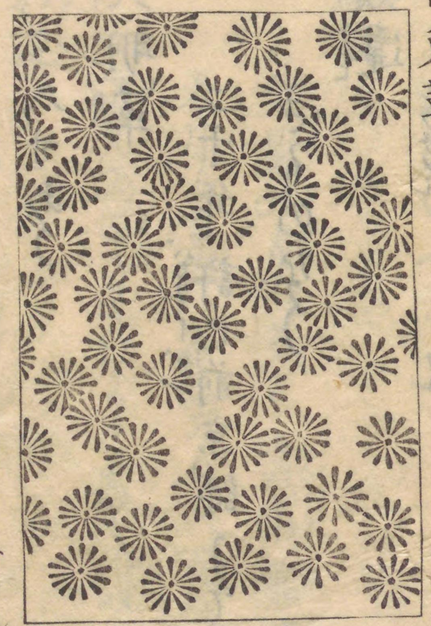
国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用



従(モト)来(モ)これをいう。故(ユエ)に詳(ツバラカ)ならざるべし。革(カハ)など、そこ〴〵に図(ヅ)をそえ及(オヨ)びども。代(テガハ)りのものなき〔ゆえ〕しめんが為、そこを出せり。次(ツギ)の図(ヅ)なる銭花菖蒲(ハナシャウブ)も杉立(スギダチ)ともいひ。また次なるを巴菖蒲(トモエ)ともいう

村上吉右衛門刻

御免革(ゴメンカハ)



地紙紫(ムラサキ)を染(ソメ)て、図のごとき菊の形紙おきそりのもの。その摺(サシ)の天平革を似せをもて、これ紙御免(ゴメン)革(カハ)と称す。

姫路(ヒメヂ)革(カハ)

播州(バンシウ)姫路(ヒメヂ)にて製(こしら)えし、五色あり。いづれも一(ヒト)筋の菱(アラヒ)と、茅(チリザクラ)桜(ザクラ)に梅(ユキウ)印あり。大さ長さ定まりなし。

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209

ガラス使用

ふくあり・紅花乃ものハ・中うそる直なり

印花革

前ニも出名あり・今と列なり・是ハさらに拵揉を・江戸にて製しするものゝ・大さ三尺八寸あり

大明革

二十年許已前京師にて製をせしさらのなり

類違

白滑革・又ハ古ふるそべ革など・茶汁にて染

村上吉右衛門刻

ふをなり

虎皮

交易のもの・多く雲南・東埔寨より出ると掛目大なるものハ・壱枚七八百目・小なるハ・五六百目までの・ものさなるもあり・以下毛皮の類を擧て・通商考よるべし

豹皮

洮州又湖廣より出れとも・通商考よるべし

羊皮

古渡れの・色白く鮮なり・新渡ハ・黒く・奥あり・諸蛮夷より出るども・西天竺乃産・我佳とす

村上吉右衛門刻

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

金鼠（キンソ）

毛先金光あり。又銀鼠あり。同く毛先銀色かゝりけり。
是ハ數十張（イ）殘（ヌヒ）徑よせて衣服を製しゝるものなり。蠻人の衣裳のまゝにて渡まるものゝ
也。一種火鼠（ヒネズミ）と稱するものゝ有。其毛も赤（アカ）き殘
等（オヾ）。火中へ投（トウ）れハ焼（ヤケ）ざるよし。いひ傳へたれ
ども。其人（アルヒト）あやまつて。火中へおとせしに。一旦（ダン）
とろ〳〵やきなり。其後（セウダン）笑止（シ）とて。かの竹籠（タケトリ）抔に
入てハ。火（クワクワンフ）滾布などいふものも。

獵虎（ラツコ）

金色（コガネイロ）にして。絢毛（ワタゲ）のごとくなり。ゆへに
毫（エビ）を指（モジ）して文字など殘付（ツク）
ことあり。奥羽松前（アウレウマツマヘ）抔より
出（イヅ）る。おさ〳〵多（ハヾ）からず。以下和産毛皮

ハ。かならず火氣（カキ）を厭（イトヘ）ども。今火氣と
付（ツケ）ハかならずそこなふ事（カウズ）ありと。實（ジツ）
實（ジツ）あらざるべし。近（キン）世或人の工夫（クフウ）にて。火滾布（クワクワンフ）
製（セイ）せしと。いへるもの。火（ヒ）に投（トウ）ても焼（ヤケ）ざる
ゆへ（キ）なり。いまだ實見（ジツケン）せざれバくわしく詳（ツビラカ）ならず

国立国会図書館　装劍奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

メップ　文字正名等未詳

全躰綿毛茶褐色ニして毛先黒し油気有て、くさゝゆ（キュ）・滑（ナメ）せバ臭気（レウキ）頗除（ヨホドノゾ）く、冬も裏毛色メップれ（フ）ごとくニして豹（ヘウ）皮のごとき銭（ゼニガタ）形古来羚羊の字を用ふ未詳

全躰毛茶褐色ニして毛先黒く縁毛白し

アザラシ　一名水豹（アザラシ）ともいふ（イヘ）

毛色メップれ文（フ）あり油気（アブラケ）臭（クサミ）等ありニク

其毛長し

鹿胎皮（シカノハラゴモリノカハ）

皮ふくれ（ウス）・文鮮（アザヤカ）なり

熊皮（クマノカハ）　唐熊を上とす湖廣の産尤よし

兎皮（ウサギノカハ）　冬にて白し山兎ハ茶褐色なり光なし

貂皮（テンノカハ）　茶褐色にして光あり

狐皮（キツネノカハ）

附　アンペラ　水草を以て織（オリ）るものなり・アンペラハ・苻蓏（カウタウ）ともいふ唐音なるよし苻一名苻蓏ともいふ

作て・苻蓏ハ簾（アジロ）篠（スヽ）に似て直文（タヽヨコオリ）のと・揚（ヤウ）子方言の注（チウ）よろしきよし・今のアンペラハ苻（カウ）蓏（タウ）の精品（セイヒン）なるものにて・蠻人（バンジン）の製なり・通商考（ツウシヤウカウ）に浮泥國（ホルネルコク）にて織（オル）ものよし（コレ）

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209

ガラス使用

革屬(カハノタグヒ)よあらざれど。佩物(サゲモノ)等よ用きバ。そ
れ我出せり

○印籠(インロウ)工名譜(メイフ)

凡印籠の名義(メイギ)説(セツ)こと未詳故よ略(リヤク)そ。
今録(ロク)する和印籠師名有(アリ)て氏もそ。氏のミ
桶(トウ)して。名のきこえざる等。そこで名姓字(メイセイジガウ)號
よかゝらず。いとなりて。これ我あて
む。只(タヾオソル)怨(サベウ)をうけん事(ヤ)を。識者(シキシヤ)正(タヾセ)焉

梶川

稱久次郎　梶川彦兵衛弟子
江戸中橋檜物町住
印籠工古今第一也名人。故よ価甚貴(タカシ)。山作
重裡(ヂウノウチ)よ刑部(ギヤウブ)梨地(ナシヂ)之平目(ヒラメ)梨地庄(シヤウ)よあり。殊よ
事なり。え祖より今よ
もそこで其名(ソノナ)おとろず。
先ハ工の名(ナ)をとゝめべし

古満休伯(コマンキウハク)

江戸中橋住
二代目久蔵安巨(ヒサヤスキヨ)トイヘリ尤名人

御印籠蒔繪師

是又梶川と等しき名人なり。元祖より當代よ
もそこで。名聲(カセイ)を減(ゲン)せざる。名家なるべし

觀子(クワンシ)破笠(ハリフ)

江戸人

上よなり。此人の蒔絵よハ。必(カナラ)ず樂燒(ラクヤキ)之ハ堆朱(ツイシユ)又ハ
溜角(ソングヅノ)など我あらん。仕(ツカマツ)る事。甚(ハナハ)だ風流なる拙
なり。是又一名あるべし

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

近直昌　姓氏居住等未詳

春政　姓氏未詳　京師人

塩見小兵衛政誠　京師住

塩見小兵衛の父とて、蒔絵の上手と名高し。磨出し蒔絵のもの多し。

加兵衛

是も加兵衛と同じく、京師の人形

常加　山田氏　江戸南塗師町住　御印籠工

上手ナリ

法橋光琳　稱レ勝六ト號ス二青々堂一　京師人

光悦門人にて、風流のぬし（カウレ）士なり。画をよくす。亦

一おなじ印銘、光悦好のかたちなるべし。其蒔絵ハ、所謂光琳風の絵まで、青貝かるがひまで形を摸（モ）し、地を彩（ウツ）して、そうづこと内も梨地を用ひず。やはり金彩濃（ダミ）なり。銘ハ蓋のそこへ錐（キリ）の尖（サキ）にて、かくかくと其名を残す。

田付孝則　江戸人歟

同　女五　孝則親族歟

桃葉齋　稱ス源六ト　江戸住

野村九圭　稱ス次郎又ト　江戸住　阿州御抱

同　摂平　稱ス次郎兵衛ト一九圭弟　江戸住　上手

国立国会図書館　装劍奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

圓阿弥丹後　江戸神田永富町住
上ル蒔繪結構ニて甚タ之事なり
幸阿弥因幡　同　皆川町住
是亦上ル之なり其作丹後ニ等ヒ
奈良八左衛門　江戸住
望月重蔵　同ル上
狩野十旭　名、建元木村氏稱ニ文次郎ト　江戸住
巣野不幽　名、重春木ト村ト氏稱ニ甚右衛門ト　同ル上
温故長寛　江戸人
覺々齋ト號ヲ上ル之なり

土田半六　江戸赤坂住
刑部太郎　江戸人
奥村四郎兵衛　同ル上
鈴木正義　政　京師住
安川　其名未詳　大阪住

友忠　根付師ノ條ニ出
蒔繪印籠并製ル之ル物ニ象牙ヲ以テ彫成ル
圖ニするよ七賢人ヲ竹ニ虎ヲ浅彫起ト事ニ巧ミ

国立国会図書館　装劍奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

蒔繪師市兵衛　大坂追手筋

貝入さび印籠師なり

清兵衛　大坂伏見町邊ニ住

甚タ上ル〻〻て。ゑよ清兵衛のバラ印籠と揃
て。賞翫そバラ印籠とハ。重疎バラ〳〵まて合
そよ。下を上の重よ合し。裏疎おりてよ合
ても。そ工合もつくろとて。同し埒梅よなる疎
ゆくつくし。余弱冠の比。江府へくだり〳〵時。數
奇屋川岸よ住せる。児島新ゝよ人梶川
古満など。上作の江戸印籠を目利もる事疎。

授せくよ。さて上作の
右バラ印籠ゆく今セて
をゆく。上印籠の約束
らゆ疎をくれを試よ
此意をゆく。鑒識セて
事なり。是高家の秘
なゆ〳〵ほど疎。是よ告
此法ゆ衆。實永の頃
関東へめされ〳〵よ。不幸
く没セと

箱根の宿りて病

春正　姓氏未詳　稱次郎兵衛　京師ノ人

清水源四郎　江戸人

甚だ上なる人乃製する印籠、根付、相の間と稱して珍重す。相の間とは、そもそも幾許ぞや。恐らく多くは、そもそも幾許ぞや。恐らく多くは、そもそも幾許ぞや。恐らく多くは、そもそも幾許ぞや。恐らく多くは、

蒔繪師市大夫　加州金澤桶町住　加州御扶持人代々印籠師

清水源四郎弟子にて上なる。加賀印籠と一凡あり。やゝ寄る奇巧なるものし。就中七人の作列して勝る歟。孫の香

合多く七人の作なり。のこう茶人のこゝろえもあれば、その作の風雅なる事おのづから知るべし。

蒔繪師藤藏　市大夫長子　鍛冶町住

同　友之進藤藏弟　下堤町住

同　市之丞　友之進弟

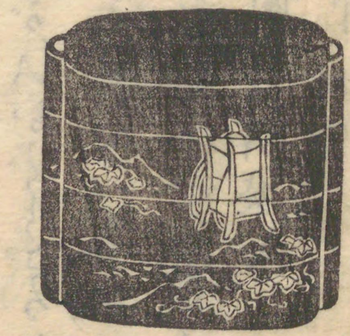
右兄弟たがひおのおの上なりて、伯仲幸風乃鼓枝ようなり。仲ハ笛、叔ハ太鼓枝ようなりて、各巧なるも業の餘滴なるべし。

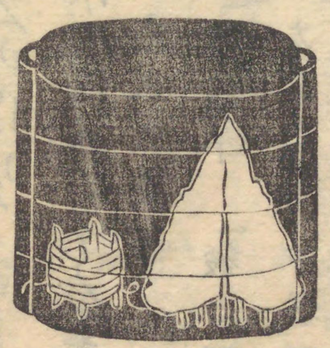
蒔繪師庄兵衛　金澤袋町

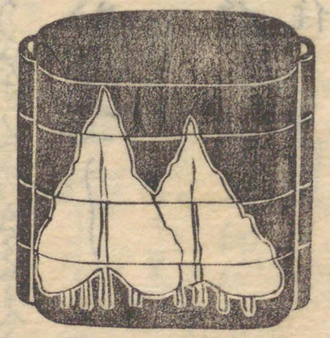
同　庄二郎　同所

国立国会図書館　装劍奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

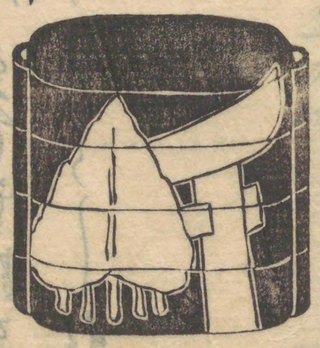
生貝入名物印籠之圖







村上吉右衛門刻



右春禽寫

国立国会図書館　装劍奇賞 7巻 139-209

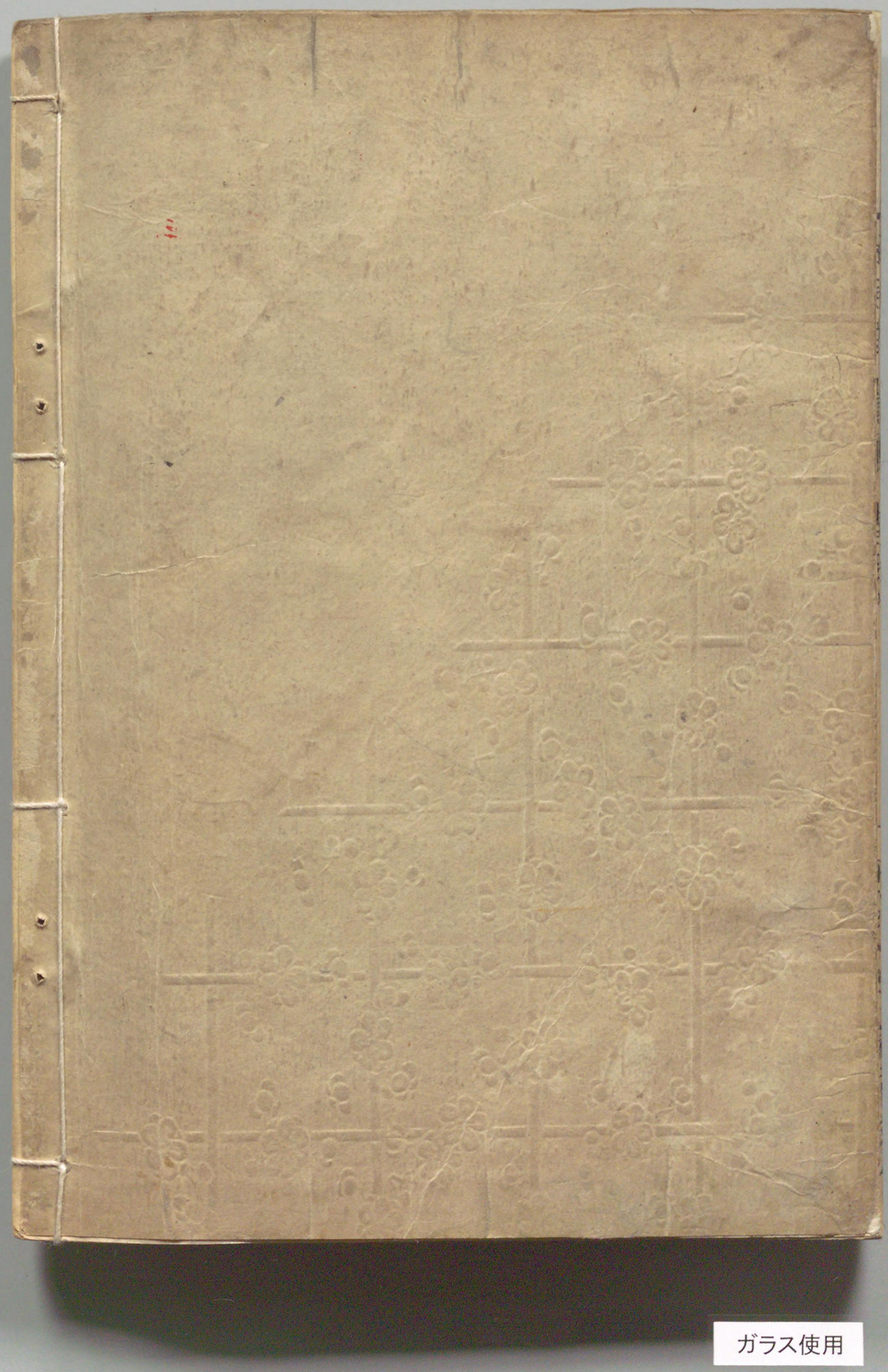
ガラス使用

139
7
209

右の外、印籠工、そ名をそゝぐりの、幾百人と
いと事繁ければ、今そ銘あり、名そゝゆりの
外どうあつこうして、僅も其ほど〳〵、球論を除
りの残拳（アグ）、狂鈿螺（ウヅカヒ）乃時代りの、或琉球（リウキウ）の貝入（カヒイリ）
雄紅（ヲヽ）グリなどのかゝる名そゝなる、長門（ナガト）印籠の
ふくぶくろなどで、そ數（カズ）そゝもあるべうぞれば、
きぐてうまもしぬ

装劍奇賞巻之六　終

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用



国立国会図書館　　装剣奇賞 7巻　139-209

ガラス使用